



株主のみなさまへ

# 第96期 株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日

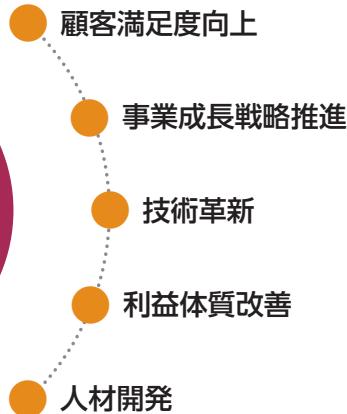
Contents	中期経営計画	1	連結財務データ	11
	トップメッセージ	2	会社情報	12
	連結決算ハイライト	2	株主情報・CSR	13
	高砂香料グループの気候変動への取り組み	5	グローバルネットワーク	14
	トピックス	7	コーポレートサイトリニューアルのお知らせ	裏表紙
	事業概況	9		

New Global Plan-1 【NGP-1】 2022年3月期～2024年3月期

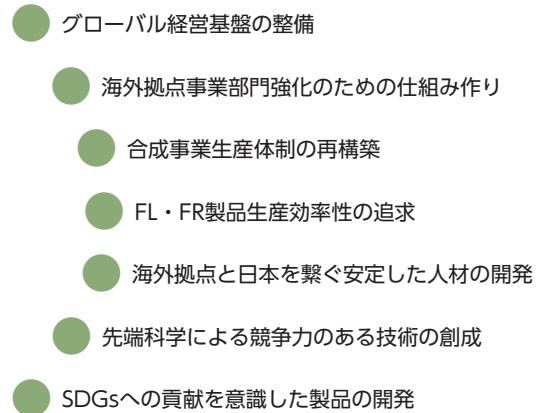
3つの基本方針



5つの柱



7つの重点課題



創業精神／Corporate Philosophy

技術立脚の精神に則り社会に貢献する  
Contributing to Society through Technology

企業理念／Corporate Mission

香りを原点とする革新的な技術を通して、  
新しい価値を創造し続ける

Our mission is to create new value  
through innovation rooted in **kaori**

※kaori : aroma in Japanese

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

Care for People, Respect the Environment

Our vision is to be:

1. proud of our culture of respect, diversity and inclusion
2. in harmony with nature, enriching and bringing well-being to daily life
3. full of hope and ambition, confidently taking on new challenges
4. eager to keep innovating, remaining an indispensable company



代表取締役社長

梶村 聡

Q. 2022年3月期の事業の状況及び2023年3月期の業績予想についてお聞かせ下さい。

A. 2022年3月期は、経済活動の制限と緩和を繰り返しながらも、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に和らいでまいりました。個人消費や雇用・所得環境ははまだ弱めの動きとなっているものの、企業収益や業況感は全体として持ち直しの動きが鮮明となりました。

このような中、高砂香料グループの売上高は前期比8.0%増、過去最高値となりました。

部門別に見ますと、フレーバー部門は日本の飲料向け等が堅調に推移しました。フレグランス部門においては米国子会社において芳香剤向け等が好調に推移しました。アロマイングリディエント部門ではスペシャルティ品が好調に推移した他、為替変動の影響も受け増収となりました。ファインケミカル部門は、医薬品中間体が好調に推移しました。

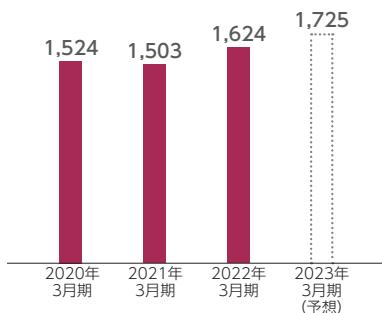
利益面では、営業利益は同40.1%増となり、こちらも過去最高値となりました。

2023年3月期は、資源価格の高騰やサプライチェーンの不安定化の影響が懸念されますが、新型コロナウイルス感染症の経済活動への影響が和らいでいく中で、基調としては回復を続けると想定しております。

連結決算ハイライト | CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS |

売上高

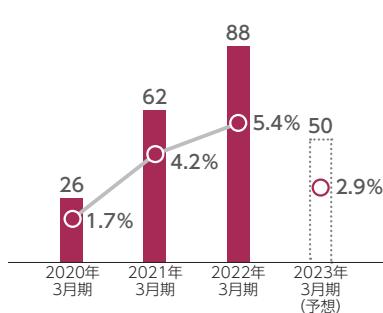
単位：億円



営業利益／売上高営業利益率

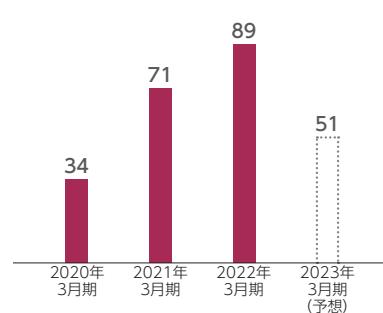
単位：億円

■ 営業利益 / ● 売上高営業利益率



親会社株主に帰属する当期純利益

単位：億円



2023年3月期の高砂香料グループの売上高は172,500百万円、当期比6.2%増を見込んでおります。継続的に海外での売上高が伸長することに加え、日本でも更に需要が回復してくる見込みです。一方、利益面は、原料費、製造費、物流費等の上昇により減益を予想しております。

## Q. 海外での成長が継続しておりますがその原動力を教えてください。

A. 創業以来積み上げてきた多様な技術群、きめ細やかな営業・マーケティング体制、調達体制、生産体制、品質保証体制、サプライチェーン体制、BCP体制、サステナビリティへの取り組み等が、顧客からの信頼に繋がってきております。このことが国内だけでなく海外の成長にも寄与していると考えております。香料事業は何か一つの製品、技術等だけで売上を生み出し続けることができるというものではありません。供給責任を果たす総合的な力を常に磨き続けることが、顧客に当社の香料を選んでいただく唯一の方法だと考えております。

香りの嗜好は各地域で異なりますので、香料事業が本格的に海外進出する際には、現地に営業、研究、製造の人材、機能を揃える必要があります。当社は1960年にニュー

ヨークとパリに進出して以降、一つ一つ現地の顧客を開拓しながら、直接投資を行ってまいりました。粘り強く事業を拡大し、現在では海外売上高がグループ全体売上高の58%を占めるまでに成長しました。

近年の例を挙げると、フレーバー部門のセイボリーカテゴリーで、アフリカ地域のブイオン向けや、東南アジアの即席麺やスナック菓子向けの注文をいただけるようになって参りました。長年に渡りローカル顧客へのアプローチを続け、徐々に当社の技術力、対応力等が認められてきたことの成果だと考えております。

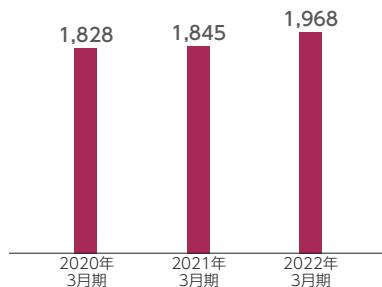
フレグランス部門ではコロナ禍をきっかけとした人々の衛生意識の高まりにより、芳香剤やアロマキャンドル向けのエアケアカテゴリーの売上が伸びました。マルチナショナル顧客には長年に渡り当社の製品を採用いただいております。納入を続ける中で堅実なサプライヤーとして信頼を得るよう努力して参りました。コロナ禍の需要増の時期に多くの注文をいただいたのは過去からの信頼の積み重ねの結果だと捉えております。

顧客からの信頼は、一朝一夕に得られるものではありません。今後も継続的に成長し続けるために総合的な力を高めて参ります。

## 連結決算ハイライト | CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS |

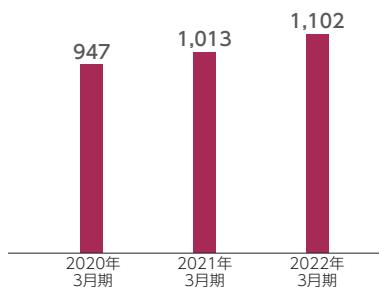
### 総資産

単位：億円



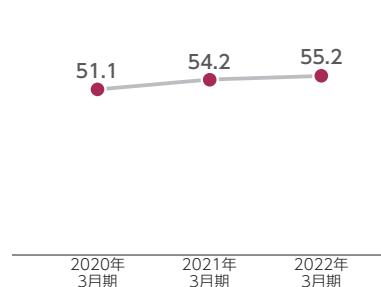
### 純資産

単位：億円



### 自己資本比率

単位：%



Q. 2022年4月25日に公表した事業用地の取得について、その背景や目的を教えてください。

A. 当社は、2022年3月30日、中外製薬株式会社から神奈川県鎌倉市梶原の土地を購入する不動産売買契約を締結いたしました。これは、現在当社が神奈川県平塚市に有する研究所を同地に移転することを企図して取得したものです。当社は、2025年後半に同地の更地引き渡しを受け、その後研究所を建設し、2028年に移転をする予定です。

当社は創業以来、一貫して研究開発を会社経営の核と位置づけ、培った技術をもとに社会に貢献することを目指して参りました。

昨今は、消費者嗜好の多様化、健康志向の高まり等を受け、香料に求められる役割、香料の果たすべき役割は、ますます拡大してきております。更に、人工知能等のITの著しい進歩、オープンイノベーションの推進等により、研究開発における環境も大きく変化してきております。

このような外部環境の変化に伴い、当社においても研究開発領域は拡大し続けており、新たな研究開発環境が必要と考えました。

現在当社は、世界28の国と地域に事業を展開しており、

多くの地域に研究所も有しております。それぞれの地域で得られた技術的知見を日本の本社に集積し、それらを進化発展させ、再びそれぞれの地域で展開していく、この技術の集積・進化・展開が当社の強みの一つでもあります。

グローバル拠点の技術の中心に立つコミュニケーション機能をも強化し、世界中の顧客ニーズに応えることで、更なる成長を目指して参ります。

株主の皆様には、高砂香料グループの更なる発展にご期待いただき、これからも長期的な支援を賜りますようお願い申し上げます。



詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。 <https://www.takasago.com/ja/ir>

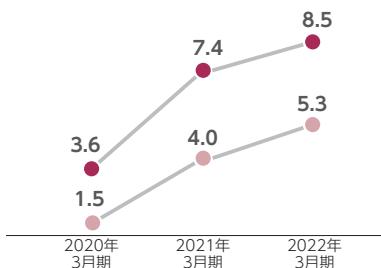
高砂香料 IR

検索

ROE(自己資本当期純利益率) / ROA(総資産経常利益率)

単位：%

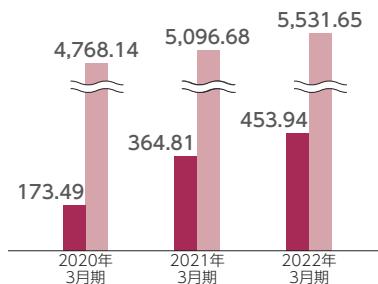
● ROE / ● ROA



EPS(1株当たり当期純利益) / BPS(1株当たり純資産)

単位：円

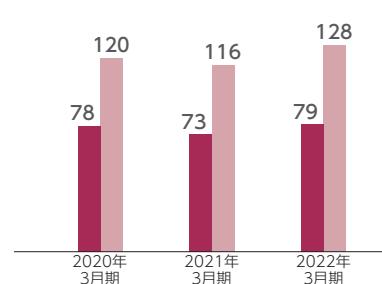
■ EPS / ■ BPS



設備投資額 / 研究開発費

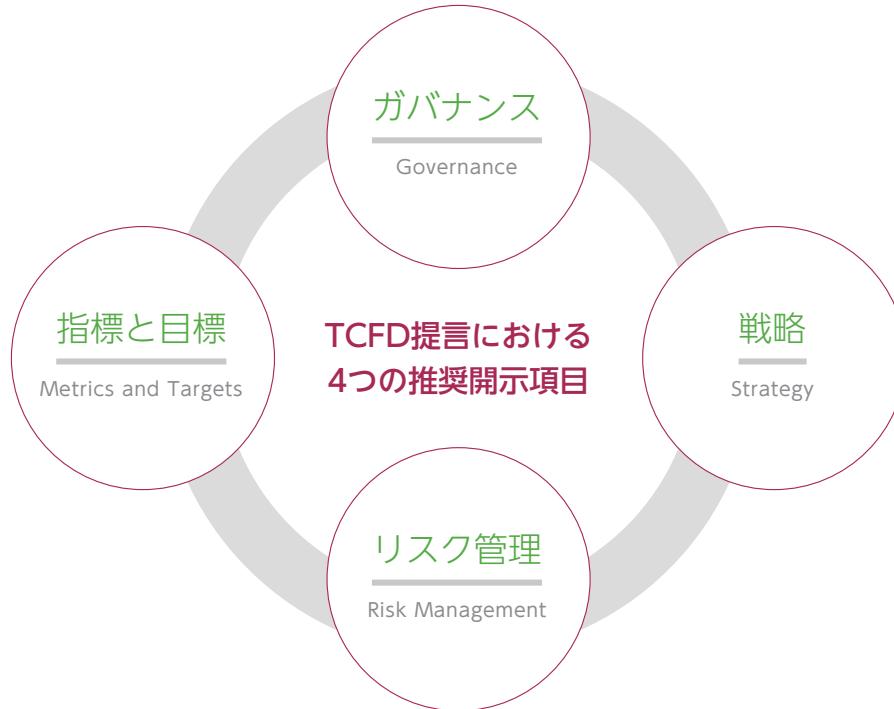
単位：億円

■ 設備投資額 / ■ 研究開発費



高砂香料グループは、気候変動をグローバル視点で長期的に取り組むべき課題と認識しており、マテリアリティの中でも重要度が「非常に高い」項目として特定しています。国際的な枠組みであるパリ協定に沿った事業活動を推進すべく、TCFD提言に従った気候変動戦略を策定し、取り組みを行っています。

当社グループは、取締役会にて議論を重ね、TCFD提言における4つの推奨開示項目「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について、開示を行いました。今回は、「戦略」と「指標と目標」について、概要をご報告致します。



## 気候変動関連財務情報開示タスクフォースとは(TCFD)とは？

各国の中央銀行総裁および財務大臣からなる金融安定理事会(FSB)の作業部会になります。Taskforce on Climate-related Financial Disclosureの頭文字から、TCFDと呼ばれています。投資家等が適切に判断するため、一貫性、比較可能性、信頼性、明確性をもつ、効率的な気候関連財務情報開示を企業へ促すことを目的として、2017年、TCFDは自主的な情報開示のあり方に関する提言を公表し、国際的に支持されています。

## 戦略

高砂香料グループは、気候変動に伴うさまざまなリスク・機会を事業戦略上の重要な観点の一つと認識しています。

サステナビリティ推進チームのメンバーでシナリオ分析を実施して、2030年以降の中長期にわたる時間軸でのリスク・機会の特定を行いました。その結果、気候変動によるリスクとして、豪雨や洪水などの物理的リスクによる自社拠点の操業を含むサプライチェーンへの影響などが抽出されました。重要拠点においてBCP策定及び事業継続力の強化により、影響の低減に取り組んでいます。

一方、気候変動に関する機会として、気候変動への適応によるエネルギー効率等操業面での改善やイノベーションによる新製品の開発などが抽出されました。気候変動への適応を新たな事業機会として捉えており、低炭素商品・低炭素技術の研究開発・販売にも積極的に取り組んでいます。当社はグリーンケミストリーの実現に向けた取組みを推進しており、高効率で環境負荷の低い機能的な触媒や連続フロー反応などの研究開発を今後も進めていきます。

## 指標と目標

高砂香料グループは、2021年4月よりスタートした当社グループのサステナビリティ中長期計画であるSustainability2030において下記のGHG<sup>※1</sup>排出量削減目標を策定しました。

- ▶ 2030年までに自社排出に該当するScope1<sup>※2</sup>+2<sup>※3</sup>を27.5%削減
- ▶ 同期間でサプライチェーン排出に該当するScope3<sup>※4</sup>を13.5%削減



今後は削減目標達成に向かって、より一層のエネルギーの効率的利用や再生可能エネルギーの導入、原材料などの調達先との協働により排出削減に努めるなど、カーボンニュートラル社会へ貢献してまいります。尚、これらの削減目標は国際的なイニシアチブである「Science Based Targets initiative (SBTi)」<sup>※5</sup>からパリ協定に合致した科学的な目標であることが認定されています。

※1. GreenHouse Gasの略

※2. 主に自社で化石燃料を消費し、その時に排出されるGHG排出量

※3. 主に自社で使用するエネルギーを製造するため、自社の敷地外で排出されるGHG排出量

※4. 製品の調達段階から、物流、販売、消費など、サプライチェーン全般において排出されるGHG排出量

※5. 科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出削減目標 (SBT) の設定を企業に働きかけている団体で、現在日本でも164社 (2022年3月時点) が認定を取得しています。

## TOPIC #1 高砂香料工業関連の論文が アメリカ化学会の「ブレイクスルー」論文に選定されました

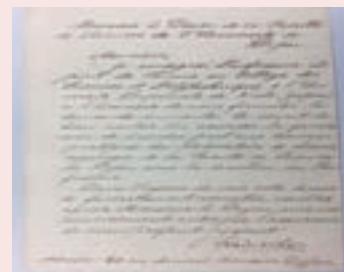
名古屋大学、分子科学研究所および高砂香料工業が1987年に発表した不斉触媒反応に関する論文が、2021年度の米国化学会「歴史的化学論文大賞 (Citations for Chemical Breakthrough)」を受賞しました。この賞は、米国化学会の化学史部門 (HIST) によって2006年に設立された顕彰制度で、18世紀後半以降の自然科学研究における膨大な数の論文の中から、人類の発展に著しく貢献した歴史的な化学論文が選定されるものです。これまで、アボガドロの分子説に関する論文 (1811年)、パスツールの光学活性体の発見に関する論文 (1848年)、メンデレーエフの元素の周期律に関する論文 (1869年)、ワトソンとクリックのDNA二重螺旋に関する論文 (1953年) など、画期的な約80篇の論文が選出されてきました。アジアでは今回が初めての受賞となります。「ブレイクスルー」とはコンセプトが革新的で、範囲が広く、長期的に影響を及ぼすものであることを意味します。当社研究員や関係者の著した論文が、ブレイクスルーな歴史的出版物のひとつとして認められたことは大変名誉なことと思います。



## TOPIC #2 高砂香料工業所蔵のアーカイブズが「化学遺産」に登録されました

2022年2月に開催された社団法人・日本化学会理事会において、高砂香料工業所蔵の一連の資料が、『日本の合成香料工業創成期の資料』として化学遺産に登録されることに決まりました。

化学遺産は日本化学会の化学遺産委員会が日本の化学分野の歴史資料の中でも特に貴重な資料を遺産として認定するもので、2010年3月に制定されました。当社所蔵資料は60番目の登録となり、香料関連としては初めてのものになります。認定された資料は、高砂香料の創業者である甲斐 荘 楠香かひのしょうただかが残したノートや手帳、メモや絵葉書などで、その数は約160点に及びます。100年を越える高砂香料の歴史の礎を作ったそれらの史資料が、日本の化学工業史、あるいは香料産業史上の価値を認められて化学遺産に認定されたことは大変喜ばしく、名誉なことと思います。なお、認定された資料の一部は、本社ロビー脇の高砂コレクション® ギャラリーに展示しておりますので、お近くにお出の際は是非お立ち寄りのうえご覧ください。



1911年に甲斐荘楠香がデジジョン大学に宛てた書簡の下書き

### TOPIC 03 ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されました

高砂香料工業はこの度FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定されました。

本インデックスは、グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築され、各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス (ESG) の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、セクター・ニュートラルとなるよう設計されています。

また低炭素経済への移行を促進するため、特に温室効果ガス排出量の多い企業については、TPI経営品質スコア※により改善の取り組みが評価される企業のみを組み入れています。

本インデックスは、日本の年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が運用を行う際のESG指数にも選定されています。



### FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Russell (FTSE International LimitedとFrank Russell Companyの登録商標) はここに高砂香料工業株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。  
<https://www.ftserussell.com/products/indices/blossom-japan>

※TPI経営品質スコア：企業の温室効果ガス排出量および低炭素への移行に関連するリスクと機会の管理の質を評価するもの。

### TOPIC 04 iFactory事業が第4回 日本オープンイノベーション大賞「経済産業大臣賞」を受賞しました

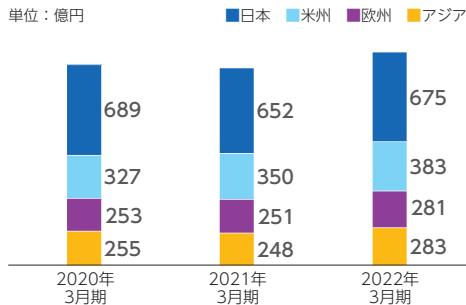
国内子会社の株式会社高砂ケミカルが参画する“革新的連続生産システムiFactory®の開発と普及販売”が第4回 日本オープンイノベーション大賞「経済産業大臣賞」を受賞しました。この賞は、研究開発の成果を迅速に社会実装し、社会的ニーズの解決や新たな価値の創造に向けて、オープンイノベーションの手法を効果的に実施する団体を表彰するものです。従来の生産方式からiFactory®に転換することで温暖化や人口減少の影響を緩和できることや、異業種のプレーヤー (14社1機関) が持つ専門技術を集約してiFactory®の開発に取り組んだ事が、日本産業界における新たなルールモデルとして高く評価されました。表彰式は内閣府にて行われ、株式会社高砂ケミカルが代表して賞状と盾を受け取りました。



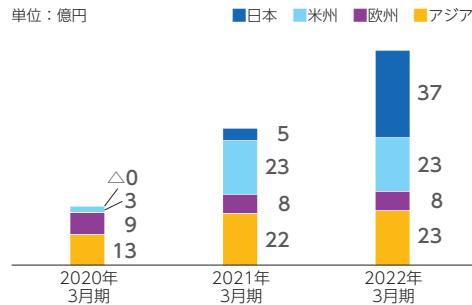
高砂ケミカル 齊藤会長(左)、当社 樹村社長(右)

## 地域別概況

### 地域別売上高



### 地域別営業利益



#### ■ 日本

当社のフレーバー部門が堅調に推移し、増収増益となりました。

#### ■ 米州

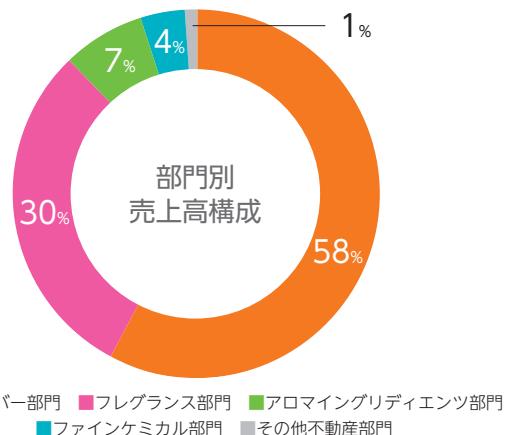
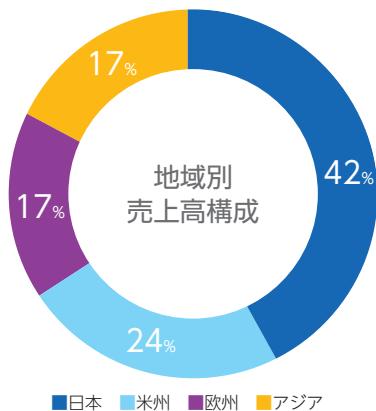
米国子会社においてフレグランス部門等が好調に推移し、増収増益となりました。

#### ■ 欧州

フランス子会社が好調に推移した他、為替変動の影響を受け、増収減益となりました。

#### ■ アジア

中国子会社が好調に推移し、増収増益となりました。



## 部門別概況



### フレーバー部門

売上高 **942**億円 [前期比6.0%増 ↑]

#### 事業内容

飲料やデザート、菓子、乳製品、調理食品などに、優れた香りと風味を付与するフレーバーを提供し、さらに果汁やコーヒー、お茶といった食品原料も提供しています。

- 当社において飲料向け等が堅調に推移し、増収となりました。

売上高 単位：億円



### フレグランス部門

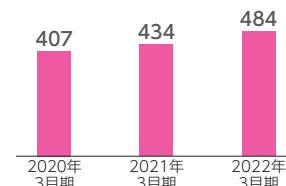
売上高 **484**億円 [前期比11.6%増 ↑]

#### 事業内容

香水や化粧品やシャンプー、洗剤、芳香剤、入浴剤といった商品に使用される香りを、残香性や拡散性、安定性にも優れたかたちでクリエーションし、提供しています。

- 米国子会社において芳香剤向け等が好調に推移し、増収となりました。

売上高 単位：億円



### アロマイングリディエーツ部門

売上高 **113**億円 [前期比9.7%増 ↑]

#### 事業内容

光学活性で革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエーションに用いています。

- スペシャルティ品等が好調に推移した他、為替変動の影響を受け、増収となりました。

売上高 単位：億円



### ファインケミカル部門

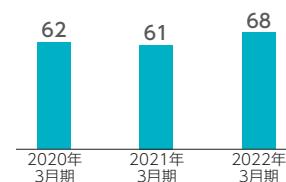
売上高 **68**億円 [前期比10.9%増 ↑]

#### 事業内容

独創的な触媒・不斉合成技術を核に、連続フロー技術による医薬品中間体、電子写真感光体などの機能性素材を提供しています。

- 医薬品中間体が好調に推移し、増収となりました。

売上高 単位：億円



※上記の他に、その他不動産部門の売上高14億円がございます。

経営成績

単位：億円

科 目	2018年3月期 (第92期)	2019年3月期 (第93期)	2020年3月期 (第94期)	2021年3月期 (第95期)	2022年3月期 (第96期)
売 上 高	1,415	1,505	1,524	1,503	1,624
売 上 原 価	967	1,047	1,098	1,053	1,113
売 上 総 利 益	448	457	426	450	511
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	384	398	399	387	423
営 業 利 益	63	58	26	62	88
経 常 利 益	67	67	28	72	101
親会社株主に帰属する当期純利益	70	47	34	71	89

財政状態

単位：億円

科 目	2018年3月期 (第92期)	2019年3月期 (第93期)	2020年3月期 (第94期)	2021年3月期 (第95期)	2022年3月期 (第96期)
流 動 資 産	918	943	909	917	1,068
固 定 資 産	979	918	918	927	899
流 動 負 債	527	529	554	503	571
固 定 負 債	386	358	326	327	294
純 資 産	984	973	947	1,013	1,102
( うち株主資本 )	(796)	(834)	(853)	(912)	(991)
総 資 産	1,897	1,862	1,828	1,845	1,968

## 会社概要

会社名	高砂香料工業株式会社 (TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本社	〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア17F
TEL	03-5744-0511
創業	1920年2月9日
資本金	92億4,853万8,972円

## 国内事業所一覧

本社	大阪支店	名古屋支店	福岡支店
平塚研究所	平塚工場	磐田工場	鹿島工場 三原工場

## 国内子会社

株式会社高砂ケミカル	高栄産業株式会社
高砂スパイス株式会社	高和産業株式会社
高砂フードプロダクツ株式会社	有限会社高砂保険サービス
高砂珈琲株式会社	南海果工株式会社
株式会社高砂インターナショナルコーポレーション	高砂香料西日本工場株式会社
株式会社高砂アロマス	

## 取締役および監査役 (2022年6月24日現在)

代表取締役社長	榊原 聡
取締役	村久 達也
取締役	藤原 史弘
取締役	山形 健樹
取締役	染谷 直裕
取締役	谷中 浩一
取締役	水野 史浩
取締役	磯野 直樹
取締役	川端 一樹
常務取締役	小野 哲夫
常務取締役	中江 康幸
監査役	小川 幸宏
監査役	小川 幸宏

(注) 1. 取締役野依良治氏、松田浩明氏は社外取締役であります。  
2. 監査役小野哲氏、中江康男氏は社外監査役であります。

## 執行役員 (2022年6月24日現在)

社長	榊原 聡
常務執行役員	村久 達也
常務執行役員	藤原 史弘
常務執行役員	山形 健樹
常務執行役員	染谷 直裕
常務執行役員	谷中 浩一
常務執行役員	水野 史浩
常務執行役員	磯野 直樹
常務執行役員	川端 一樹
常務執行役員	隈木 康之
常務執行役員	佐藤 文則
常務執行役員	平川 明彦
常務執行役員	平川 裕康
常務執行役員	山田 幸

## THE TAKASAGO COLLECTION

高砂コレクションは、香りや香料が歩んできた長い歴史と、その地理的な広がりや香りを反映して、古代エジプトの香油瓶から現代の香水瓶に至るまでの、香りを容れるさまざまな形の「器」のほか、日本の香道具や香木、さらには香りに関する絵画やポスターといった、多様な時代と地域、形態のものから構成される多彩なコレクションとなっています。

コレクションは他美術館などに協力して出展するほか、本社に設けたギャラリーでご覧いただけます。

### 「ジュレ・フレール社」ポスター 20世紀前半 フランス h 51×w 68cm

ジュレ兄弟は、王妃マリー・アントワネットの調香師だったジャン・ルイ・ガルジョンから処方を受け継ぎ、1826年にパリで“ジュレ・フレール”を開いた。彼らの目標は、すべての女性のために王妃の美の秘密を届けることであった。

香水や石鹸など化粧品の世界で先駆者となったジュレ・フレールは、女優のミスランゲットを起用した広告ポスターを作り、ブランドの知名度を高めた。優美さやエレガンスを感じさせるポスターからは、時代の美意識や空気が読みとれる。



## 株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	20,152,397株
株主数	5,239名

## 株式の分布状況



## 大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,932	9.8%
日本生命保険相互会社	1,468	7.5%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,171	6.0%
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES PARIS/JASDEC/BNPP SA RETAIL FRANCE	994	5.1%
株式会社三菱UFJ銀行	947	4.8%
共栄火災海上保険株式会社	780	4.0%
中江産業株式会社	720	3.7%
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	614	3.1%
高砂香料従業員持株会	520	2.7%
株式会社みずほ銀行	486	2.5%

(注) 1. 当社は自己株式518,033株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。また、持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。

2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、株式会社日本カストディ銀行(信託口)の持株数には信託業務に係る株式数が含まれております。

## 表紙の写真

### パカラ

香水瓶「太陽王(スキャパレリ社)」 1945年 フランス h.16.3cm

モード界のシュルレアリストと言われたエルザ・スキャパレリが、親交のあったサルバドール・ダリにデザインを依頼し、パカラが製作した香水瓶。太陽の顔には空を飛ぶ鳥の姿を描き、瓶の模様は海面のきらめきを表している。太陽王と呼ばれたフランス王ルイ14世をイメージの中に取り込んだ作品。

撮影：十文字 美信

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 6月  
 基準日 定時株主総会 3月31日  
 期末配当金 3月31日  
 中間配当金 9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 特別口座口座管理機関 同

(同連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 電話 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部(化学)  
 ※当社は2022年4月4日をもって東京証券取引所市場第一部から新市場区分「プライム市場」へ移行しました。

証券コード 4914

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により行う

公告掲載URL [https://www.takasago.com/ja/ir/e\\_announce.html](https://www.takasago.com/ja/ir/e_announce.html)

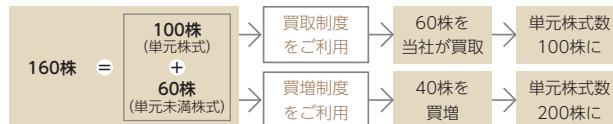
※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

## 株式に関するお手続きについて

### ● 単元未満株式(100株未満の株式)買取・買増制度について

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主さまは、ぜひ買取・買増制度のご利用についてご検討くださいますようお願い申し上げます。

### 買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



## 「環境・衛生・安全」への取り組み

当社グループは、持続的な(サステナブル)社会の実現に向けて、環境保全に対しグローバルに取り組んでおります。詳細については、当社ホームページ「サステナビリティ」をご参照ください。



高砂香料工業株式会社  
 「社会・環境報告書 2021」

URL <https://www.takasago.com/ja/sustainability/data>



## グローバルネットワーク

### ヨーロッパ・中東・アフリカ

フランス	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.
ドイツ	Takasago Europe G.m.b.H.
	Takasago International (Deutschland) G.m.b.H.
イタリア	Takasago International (Italia) S.R.L.
スペイン	Takasago International Chemicals (Europe), S.A.
	Takasago International (España) S.L.U.
イギリス	Takasago (U.K.) Ltd.
トルコ	Takasago International Turkey Esans Ve Aroma San. TIC. A.S.
南アフリカ	Takasago International Corporation South Africa (Pty) Ltd.
マダガスカル	Takasago Madagascar S.A.
モロッコ	STE Cananga S.A.R.L.

### アメリカ大陸

アメリカ	Takasago International Corporation (U.S.A.) Centre Ingredient Technology, Inc.
メキシコ	Takasago De Mexico S.A. De C.V.
ブラジル	Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.



### アジア・パシフィック

日本	Takasago International Corporation	パキスタン	Takasago International (Pakistan) Pvt. Ltd.
シンガポール	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.	中国	上海高砂香料有限公司 上海高砂・鑑臣香料有限公司 廈門華日食品有限公司 高砂香料(広州)有限公司
フィリピン	Takasago International (Philippines), Inc.	韓国	Takasago International Corporation (Korea)
タイ	Takasago Import and Export (Thailand) Ltd.	マレーシア	Takasago International (Malaysia) Sdn.Bhd.
インドネシア	PT. Takasago International Indonesia PT. Takasago Indonesia		
インド	Takasago International (India) Pvt. Ltd.		

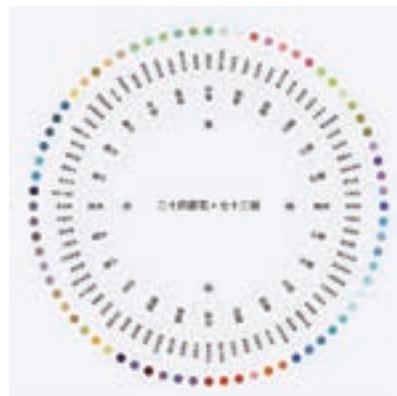
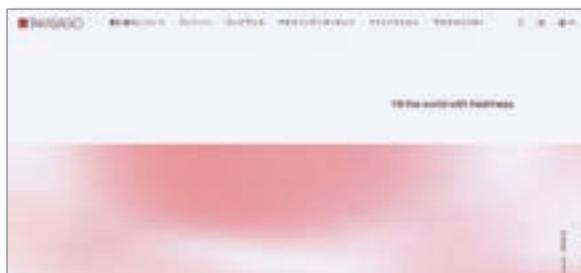
# 高砂香料工業コーポレートサイトをリニューアルしました

2022年3月1日、高砂香料工業のコーポレートウェブサイトが全面リニューアルされました。社会全体のデジタル化が進むなかで、社内外からウェブサイトの刷新を望む声は大きく、それに応える形でデザインやユーザビリティを一新し、スマートフォンにも対応しました。トップページは大きな写真が画面を占める他社のトップ画面とは一線を画するシンプルなデザインになっています。淡い色彩のグラデーションは、七十二候と呼ばれる季節区分の伝統色を採用し、季節ごとに色が変わります。季節の変化に敏感な日本人の繊細さを表わすとともに、「香り」を「色」の移ろいによって視覚化する試みでもあります。

また、各事業についてはわかりやすくピクトグラムで表わし、詳細ページへの移動ボタンなどもシンプルなデザインで統一されています。各事業のコンテンツも充実させ、特にサステナビリティに関するコンテンツを大幅に増やしました。英語版も同一内容で構成され、グローバル競争力の強化につながるものと期待しています。

さらに、見て楽しめるウェブサイトをめざし、高砂コレクション®のページでは当社所有の香水瓶や香道具など香りの文化に関する文物の写真と解説、そして写真家十字字美信氏による美しい香水瓶の写真などを閲覧できるようになりました。

当社の新しい「顔」であるウェブサイトを是非ご覧ください。



<https://www.takasago.com>

